（1）

地域、家庭ぐるみ

防災意識高めよう

シリーズで「防災ミニ教室」

災害の実態学び実践体験

講師は福井工大 竹田教授

テーマ設け年5回

避難し生き延びる意識を

（2）

防災ミニ教室　プログラム

	内容（約50分間の説明・質疑応答に質疑応答）
1回目	テーマ：日本の災害～災害をイメージしよう～ 日本は地震や豪雨である、地震の発生、洪水、土砂災害、台風などの災害が多く発生してから、この災害の構成となるハザード（危険）を知ることが大切である。以上から、地震発生の状況やメカニズム、洪水・地の防水等の構造を学ぶ。 また未来の防災を想定を考える。
2回目	テーマ：避難行動（体験型）～まずは避難体験から～ 地域の大きな災害は避難が必要となる。このため、日頃から備えるべき事項と避難行動について考える。また、実際の避難に役立ちる機器（以下ホット等）などを使用して避難の場合体験、また避難時間の相違を割り出して考える。
3回目	テーマ：防災・減災を考える～生き延びる知恵を 前回のリスクーを地図から作成して地震の原因とその事例を紹介し、防災・減災の重要性を学ぶ。また、過去と現在の関係、災害時の様々な機器、歴史と歴史学の考え方、構造（地震発生）の大切さを知る。
4回目	テーマ：避難所（体験型）～避難体験でわかる備えの大切さ～ 災害発生後に避難する場合、避難所運営が求められる。また災害発生直前からこの段階が発現されている。以上から、避難所運営の考え方、自治体との連携などについて考える。また避難所の新しいやり方などを体験する。他方の問題を参加する。
5回目	テーマ：まとめ（総括）～災害に強い地域づくり～ これまで実施した4回分の総括を行う。過ぎ去り行ろうことで、防災・減災への取り組みをしっかりと身につける。また意見交換を行うことで、次年度への取り組み課題を考える総括とする。

【令和4年度の防災ミニ教室について】

令和4年度の「防災ミニ教室」は6月12日スタートした。8月に2回目を予定していたが猛暑と新型コロナウィルス感染拡大防止のために延期となった。今年度のテーマは、新しく出席する人もいるため3年度と連続回しでが、女性からの視点を取り入れるとともに、対策に最小限度を加えるなどの対応に工夫する。

しかし、防災の知識をしっかり身につけるには繰り返し復習し体験することも大切である。「人間はすぐに忘れる」といわれる。今年度は10月、11月、12月、令和5年2月に座学や避難体験などを予定している。

（3）

避難経路の危険度チェック

道路寸断、複数ルート確認が必要

要望も参加　車いす誘導も体験

地域住民の意識を高め

（4）

地域防災活動の模範事例

住民が避難所設営――

ベッドやトイレ組み立て

参加者が自ら考える機会に

参加者の感想

参加しても実践しない

教訓されていることを再確認

優秀賞　坂井市　みくに地区まちづくり協議会